

荒川源流探検

二瀬ダム・滝沢ダム・浦山ダム見学会



二瀬ダム



秩父湖

荒川は、その水源を秩父山地の山梨県(甲斐)、埼玉県(武蔵)、長野県(信濃)境にある甲武信ヶ岳(標高 2,475m)に発し、奥秩父特有の深いV字渓谷を流下して秩父盆地を北流し、長瀬を経て寄居附近から関東平野をほぼ南に流れて東京湾に注ぐ、流路延長 173km、流域面積 2,940 km²の我が国の代表的な急流河川のひとつで、その名のおい荒れる川として昔から数多くの水害の歴史をとどめています。特に明治 43 年の水害は激しく、「埼玉県史」によれば、この洪水で荒川の堤防は右岸で 16ヶ所、左岸で 19ヶ所も決壊し大きな被害を出したと伝えられています。このためこれを契機に、翌年から直轄で荒川改修工事が始められ、引き続いて大正 12 年には荒川放水路が掘られ、また熊谷から下流の河道整備等の改修が順次行われ、昭和 29 年をもってこれら一連の工事は完了を見ました。しかし、この改修工事の最中、昭和 22 年カスリーン台風の時に計画高水流量を上回る出水がありました。そこで昭和 25 年に「荒川総合開発計画」が立てられ、埼玉県及び東京都の水害に備えることとなりました。この荒川総合計画の中心事業が二瀬ダムの建設です。

今回は、荒川の最上流にある二瀬ダム及び滝沢ダム、浦山ダムを見学します。

下記のとおり実施しますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時	10月6日(日)	7:30集合・出発(JR新小岩駅 東北広場)
集合場所	JR新小岩駅 東北広場(裏面地図参照)	
参加費	1,000円(資料、交通費、保険料の一部として)	
募集人数	50名(先着順)	eizoutoshikeikaku@gmail.com 携帯 080-4006-8819
行程	7:00 なぎさニュータウン(なぎさニュータウンにお住まいの方)	
	7:30 JR新小岩 東北広場 出発(集合次第出発します)	
	12:00 二瀬ダム・滝沢ダム・浦山ダム 順次見学	
	15:40 埼玉県立自然の博物館(別途費用 入館料 大人200円 高校生・大学生100円)	
		※行程の進捗次第で寄らずに帰る場合があります。ご了承願います。
	16:30 帰路	
	19:30 JR新小岩 東北広場	
	20:00 なぎさニュータウン	

※昼食は各自持参願います。特に昼食時間を設けておりません。適宜お召し上がり下さい。
※交通状況により行程及び時間等、変更することがあります。ご理解・ご協力願います。

主催 市民防災まちづくり塾実行委員会・関東地域づくり協会

二瀬ダム

二瀬ダムは、その高さ 95m、天端幅 288.5m、コンクリート打設量 356,000m³ の重力式アーチダムで、総貯水容量 26,900,000m³、有効貯水容量 21,800,000m³ の貯水池によって計画高水流量毎秒 1,500m³ の 46% に相当する毎秒 700m³ の洪水をカットすることにより下流の洪水防止に役立てるほか、貯水池からの放流によって下流熊谷市附近の大里、元荒川、櫛引、本島地区を併せた 8,603ha のかんがい用水の確保を図り、さらにダム直下に設けられた最大出力 5,200kW/h の発電所（東京発電(株)管理）によって、年間最大 17,487Mwh の発電を行うことができます。



滝沢ダム



滝沢ダムでは、ダム地点の計画高水流量（およそ 100 年に 1 度起こりうる洪水の規模）：1,850m³/秒のうち、1,550m³/秒をダムで貯め（洪水調節）、ダム下流への放流量を 300m³/秒に減らすことにより下流域の洪水被害の軽減を図ります。なお、洪水調節は、2 門の常用洪水吐きゲートを用いて行われます。河川の流量が豊富な時にダムに貯留し、逆に不足している時にダムから補給することにより荒川沿川の既得取水（古くから取水されている農業用水等の取水）が安定してできるように、また河川環境の保全等のために必要となる流量が確保できるようにします。埼玉県の水道用水として最大 3,74m³/秒、東京都の水道用水

として最大 0.86m³/秒、合計 4.6m³/秒の取水が可能となりますようにします。これは一人一日当たりの平均水使用量を 305 リットルとすると、約 130 万人分の使用量に相当します。水力発電が、東京発電(株)により行われます。ダムからの放流水（最大 4.25m³/秒）を利用して最大出力 3,400kW の発電を行います。

浦山ダム

浦山ダムでは、ダム地点の計画高水流量（およそ 100 年に 1 度起こりうる洪水の規模）1,000m³/秒のうち、890m³/秒をダムで貯め（洪水調節という）、ダム下流への放流量を 110m³/秒に減らすことにより下流域の洪水被害の軽減を図ります。なお、洪水調節は、常用洪水吐きという「穴」から少しずつ放流されますが、ゲートによる放流量の調節は行われなことから自然調節方式と言われる方式で行われます。河川の流量が豊富な時にダムに貯留し、逆に不足している時にダムから補給することにより荒川沿川の既得取水（古くから取水されている農業用水等の取水）が安定してできるように、また河川環境の保全等のために必要となる流量が確保できるようにします。秩父市の水道用水として最大 0.234m³/秒、埼玉県の水道用水として最大 2.696m³/秒、東京都の水道用水として最大 1.170m³/秒、合計 4.1m³/秒の取水が可能となりますようにします。これは一人一日当たりの平均水使用量を 305 リットルとすると、約 116 万人分の使用量に相当します。水力発電が、東京発電(株)により行われます。ダムからの放流水（最大 4.1m³/秒）を利用して最大出力 5,000kW の発電を行います。



新小岩駅東北広場案内図



集合場所

JR新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、ロータリー広場にお集まりください。

